

NPO法人 あっとわん

ママのこころと笑顔の応援団



第131号
通信

あっとわんは子育て支援の団体です。親と子のエンパワメントを応援しています。 2014年10月24日発行 46,370部



秋になると、 なんとなく本が 読みたくなりませんか？ 勝手におすすめしちゃいます！

日が落ちるのが早くなり、
なんとなくお家で
ほっこりする秋の夜長の
わたしの講座でも
お知らせしているものですが、
勝手におすすめの本を
紹介しますね。

「子育てプリンシプル」

奥田健次著 一ツ橋書店 2009年発行 1080円

親が一貫した姿勢を貫かなくてはいけないですよってことを、奥田先生はいろんな表現で伝えてくださっています。当たり前のことだけれど、この当たり前のことがなかなかできないんだということを、ひしひしと感じています。そんなに難しいことを言っているわけではないのに、難しいと感じるのはなぜなのか？という視点を、考えてみたい一冊です。「金太郎飴母を目指す」「がまんを教える」「子どもは新米乗組員。舵は親がとる」「家族で共有する枠組みを持つ『土台家族』を目指す」…などなど、必見の書です。



「叱りゼロで「自分からやる子」に育てる本」

奥田健次著 大和書房 2011年発行 1512円

「子育てプリンシプル」の2年後に出版されました。より具体的に書かれてあると思います。

非常に实际的で具体的な本。望ましい習慣が身に付かない理由は？性格ではなく行動の特徴。性格のせいとレッテルを貼るのではなく、「行動」に焦点を当てる。子どもの「行動」に対する大人の「対応」が鍵。「自分からやる子」と「叱られないためにやる子」の違いとは？自分にもっと何ができるか常に考える子と、言われたことだけをこなすそれ以外はやらない子。どうしてもやめさせたいクセを直すには？子どもの「基本的権利」と「特権」は別物…などなど、叱らない子育ては、親の覚悟が問われるということを実感する書でもあります。



「ルポ 虐待：大阪二児置き去り死事件」

杉山春著 ちくま新書 2013年 907円

2010年夏、3歳の女兒と1歳9カ月の男児の死体が、大阪市内のマンションで発見された事件のルポが丁寧に描かれています。なぜ幼い二人は命を落とさなければならなかったのか、それは母親一人の罪なのか…。事件の経緯を追いかけて、母親の人生をたどることから、幼児虐待のメカニズムを分析する中で、考えさせられることがたくさんありました。目を背けるだけでなく、非難するだけでなく、考えていきたい一冊だと思いました。



「昔はよかった」と言うけれど： 戦前のマナー・モラルから考える」

大倉幸宏著 新評論 2013年 2160円

戦前の日本では、家庭で厳しいしつけがなされ、学校で修身が教えられ、みんなが高い道徳心を身に付けていた。しかし、戦後そうした美徳が失われ、今や日本人のマナー・モラルは完全に崩壊してしまった」と何かあるたびに言われることですが、本当にそうなのか？ということ、さまざまな資料を通じて紹介されています。時代背景の違いを加味しながら、今と昔の違いや同じところを考える一冊だと思います。



あっとわんのFacebookページイベントなどの様子をアップしています。

<http://www.facebook.com/npoatone>



あっとわんのホームページ

<http://npo-atone.jimdo.com>

ブログも読んでね！

代表理事 河野弓子のブログ <https://ameblo.jp/berinyan/>

東部子育てセンターのブログ <http://blog.canpan.info/atone-toubukosodate>

かわのゆめ

あっとわん春秋

先日とある方にこんなことを教えていただきました。アメリカでは「言葉にできないことはない」というそうです。どんなことも、言葉で表現し、伝えることができるということなのですか。一方日本では「言葉にできないことがある」という概念があります。これについて、大きく違和感を持つ方より、理解できる方が多いのではないのでしょうか。▼この概念が、子育てでも影響をすることがあります。私が講座でも伝えていたことですが、今と昔では子どもが育つ環境が、甚だしく違うということです。言葉にしないでも伝えていく「子育て」から、「言葉にしている」のです。たとえば、イマジネーションの部分についても、それを言葉で表現できることを小さいころから経験していくことが必要になってきています。▼「どうして」「なぜ？」という問いかけに、子ども自身が言葉で表現していくことの経験です。そのためには、親である大人が「質問力を付けていくこと」「違和感や「共感」を言葉で返していくことが必要になってきます。その先には、自己肯定感や自己効力感などを高めていくことに繋がります。言葉で表現できることで、人間関係が豊かになっていくと思います。そこに、日本独特の文化としての「言葉にできないこと」が存在していくことになるように感じています。